

コラム～安全だより～



気象庁が12月に発表した関東地方の向こう3か月（1月～3月）の天候の見通しによれば、平均気温はほぼ平年並み、降水量は少ない見込みですが、雪への備えは日頃からしておきましょう。

令和8年1月（通算第157号）
発行：
公益財団法人東京しごと財団
(東京都シルバー人材センター連合)

雪が降ると転倒事故が増加します 降った後の凍結にも注意しよう

↓↓↓ 過去の事故事例 ↓↓↓



<経路途上・行き>

就業場所に向かうために校庭の裏にある日陰の側道を歩いていたところ、溶けかけていた雪の上で滑って転倒。

<就業中>

公園を清掃中、前日の降雪による積雪に滑って転倒。慣れていない積雪の状態で就業し、足元に注意が行き届かなかった。

<経路途上・帰り>

積雪のある中、自転車を押して帰宅している際、滑って転びそうになったため、足を踏ん張ったところ、左ひざに痛みが走った。

<就業中>

就業先の小学校校庭から正門に出る所で転倒。前日の雪で地面に薄い氷が張っていた。

令和6年度は降雪の日数が少なく、積雪も少なかったため、雪や凍結による転倒事故の報告はありませんでした。一方で、令和4年1月の大雪の際は40件を超える事故が起きています。



- 降雨・降雪の水分により路面が凍結する可能性があります。
- 屋外での作業、経路途上は路面凍結によるスリップに注意してください。
- 気象状況に応じ、就業日時の変更を検討してください。
- 寒いと筋肉も収縮して硬くなりやすいため、家を出る前や就業前に準備運動やストレッチを行うようにしましょう。

屋外での注意点

- 積雪時にはスノーブーツや滑り止め付きの靴を履き、重心を下げて小さな歩幅で靴の裏全体を地面につけて歩く（滑り止め付きの靴でも、靴裏がすり減っていないか、確認してから履きましょう）
- 雪やみぞれ、路面の凍結が予想される日は自転車に乗らない
- 両手が自由になるようにリュックサックやショルダータイプのバッグを選ぶ
- 降雪当日に限らず、翌日・翌々日の凍結に注意する
- 日中でも日陰は溶け残っていることがあるので注意する

時間に余裕を持った行動を！